

授業科目(ナンバリング)	中国語 I A (AC115)			担当教員	韓 榮芝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>この授業は、1年次から初めて学ぶ中国語の科目であり、2年次で開講される「中国語ⅡA・B」と「中国語会話」の前段をなすもので、中国語学習の“入門”に当たる。従って、この授業の到達目標は次の通りである。①中国語となる漢字の基礎構造とその発音の特徴を理解する。②様々なツールを使って、中国語の発音方法や基本文法を習得することができる。③中国語の語感を身につけながら簡単な対話ができる。</p> <p>これらを通して、中国や中国語圏域の各国の文化や現状に関心を持ち、中国人留学生と積極的にコミュニケーションを取り、社会人として必要な幅広い教養やホスピタリティの精神を身につけてもらいたい。</p>							①②③⑧⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	中国や中国語圏域の国々の社会情勢を的確に把握することができる。				レポート	10%	
コミュニケーション力	中国語の基礎表現(【拼音】を読める)をすることができる。中国語の会話(挨拶など)を活用した取り組み(本学の留学生との交流活動)に参加することができる。				授業参加 定期試験	10% 50%	
協働・課題解決力	積極的に中国や中国語圏域の国々の歴史や文化理解のために共に取り組むことができる。				出席カードコメント欄の内容	10%	
多様性理解力	中国の文化などを理解し、本学の留学生と互いに交流を深めることができる。				小テスト プレゼンテーション	10% 10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験の成績を50%とし筆記試験を行う(択一式、穴埋め式、など、持ち込み不可)。 小テストは、全部で5回、発表は授業毎に行う。基礎知識(語音とその意味、文法など)の確認を主とする。 課題レポートは、15回目にDVDで見た内容に関する課題を問う。 授業毎に、中国語で出席を確認し、同時に書く練習や発音の練習を加え、練習課題の提出を求め、グループワークやプレゼンテーションを行い、授業への参加意欲を評価材料とする。また、ポートフォリオの課題、レポート、小テストなどのフィードバックを授業で行う。ポートフォリオでも、課題などのフィードバックを行うので確認すること。 なお、不適切な授業態度(教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話などの使用、居眠りなど)は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>教科書に従って授業を進めるが、必要に応じて配布プリントやDVDプレイヤーなどをもとに解説する。授業の各回において、前回までの学習内容を復習しながら発音の練習を強化する。授業中に学生個々に対して発音の練習や発表を行う。授業の主な時間を発音に充て、夏休みまでに基本的な表現を一通りマスターする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：教科書：野村邦近 [著] 『はじめての中国語』 株式会社ナツメ社 参考書：必要に応じ指示する 指定図書：教科書：野村邦近 [著] 『はじめての中国語』 株式会社ナツメ社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>近い将来、観光業界などで活躍するために、中国語の習得も条件の1つであろう。また、グローバル化が進んでいる今日、中国や中国語圏(シンガポール、マレーシアなど)の国々に対する理解においても重要な科目である。中国語を身につけるには、教室の勉強だけでは足りないと考えられるので、自ら中国語の面白さを見つけて、積極的に勉強することが望ましい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	ガイダンス 中国語の発音 声調	授業の進め方及びスケジュールを把握する 音節及びその構造・表音字母名称表・4種類の声調 (四声の変化)について学ぶ。	・CD 1-1 を聞き、声調の練習を 行い、耳に慣れておく ・母音(36)の練習を行う
2	中国語の発音 母音	単母音・二重母音・三重母音・尾音を持つ複合母音 声母を学ぶ。グループワークで発音練習を確かめ合 う。	・CD1-2 の発音を聞き、耳に慣 れる ・21 個の子音の練習 ・小テストの準備
3	中国語の発音 子音	唇音・舌尖音・舌根音・舌面音・そり舌音・舌歯音 を学ぶ。小テストをする。	・CD1-3 の発音を聞き、耳に慣 れる ・母音(36)の練習を行う
4	中国語の発音と語感	単語の発音及びご挨拶の言葉について学ぶ。プレゼ ンテーションを行い。	・CD を聞き、耳に慣れる ・教科書 P 20～23 の復習 ・小テストの準備
5	名詞述語文 その1	小テストをする テーマにおける文法と基本構文	・CD2-1～2-2 を聞き、耳に慣れ る ・P24～27 の予習
6	名詞述語文 その2	テーマにおける文法と基本構文	・CD2-3～2-4 を聞き、耳に慣れ る ・P28～31 の予習
7	名詞述語文 その3	テーマにおける文法と基本構文 名詞述語文についてプレゼンテーションを行い。	・CD2-5～を聞き、耳に慣れる ・P32 の予習 ・小テストの準備
8	形容詞述語文	小テストをする テーマにおける文法と基本構文	・CD2-8 を聞き、耳に慣れる ・P38 の予習 ・小テストの準備
9	動詞述語文	テーマにおける文法と基本構文 形容詞及び動詞述語文についてプレゼンテーショ ンを行い。	・CD2-9 を聞き、耳に慣れる ・P38～の予習 ・小テストの準備
10	数字	小テストをする テーマにおける文法と基本構文	・CD2-10 を聞き、耳に慣れる ・P40 日付についての予習
11	日付	テーマにおける文法と基本構文	・CD2-11 を聞き、耳に慣れる ・P41 からの予習
12	時間	テーマにおける文法と基本構文 数字、日付、時間の言い方についてプレゼンテーシ ョンを行い。	・CD2-12 を聞き、耳に慣れる ・P44～発音の復習と文法のまと め ・小テストの準備
13	発音の復習	小テストをする 「発音編」と「基本編」の復習	・CD1-17 を聞き、耳に慣れる ・P50～の予習
14	文法のまとめ	中国文の構造(品詞：動詞、名詞、形容詞など)及び 用 例小テストをする	・主語・述語・目的語・限定語・ 状態語・補語についての復習 ・定期試験の準備
15	まとめ	前期の学習内容の振り返り、重要な発音と挨拶など の総復習 中国の事情について(DVD)	・CD を聞き、本文を熟読、練習 問題をする ・DVD 観賞 ・課題レポートの作成
16	定期試験	筆記試験	・試験のための準備

授業科目(ナンバリング)	中国語 I A (AC115)			担当教員	※劉 雲楓		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この授業では、初めて中国語を学ぶ人を対象として、発音とその表記法（ピンイン）、入門レベルの文法と表現形式を学び、アクティブラーニングの方法をもとにコミュニケーション能力の向上を図ることをねらいとしている。また、中国および漢語圏の各国・地域の歴史・社会・文化の諸相を多面的な視野から考察するために、必要な視点や基礎的な知識を学習する。							②③⑧ ⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンインを正しく読み書きすることができる。</li> <li>・自力で中国語の短文を朗読することができる。</li> <li>・簡単な会話ができるようになる。</li> </ul>				・中間試験	20%	
情報収集、分析力	中国語の表現・理解の習得を図り、漢語圏の各国・地域の歴史や文化の学習に積極的に取り組むことができる。				・課題レポート	5%	
コミュニケーション力	これから経験する言語活動の学習により、基礎的な中国語会話能力を身に付けるとともに情報発信力を付けることができる。				・発表 ・小テスト	20% 20%	
協働・課題解決力	中国語の基礎表現（読み・書き）と活用を図り、中国語の特性の理解に努めるとともに互いに交流を深めることができる。				・授業態度・授業への参加度	5%	
多様性理解力	中国語を学ぶことを通して、中国及び漢語圏の社会、文化などに関心を持ち、異文化を理解できる。				・随時試験	30%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>小テストは、第2回目から毎回行う。単語を主とする。</p> <p>中間試験は、1 回行う。基礎知識、授業内容の理解度の確認を主とする。</p> <p>定期試験は、筆記試験で、教科書や資料などの持込み不可。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>この授業は中国語の基本である発音を身につけ、簡単な日常会話を習得させると同時に、これを通じて現代中国の文化や社会について理解させることを目標とする。授業方法としては、教科書を用いた指導を基本とする。内容が理解しやすいように、要点をパワーポイントによって解説し、定期的にプリント、視聴覚教材を用いることがある。また、課題レポートや小テストのフィードバックは授業中に適宜行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：陳淑梅・劉光赤『しゃべっていいとも中国語・中西君と一緒に中国へ行こう！』朝日出版社</p> <p>参考書：授業を通して指示する</p> <p>指定図書：陳淑梅・劉光赤『しゃべっていいとも中国語・中西君と一緒に中国へ行こう！』朝日出版社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>中国語は正確な発音の習得が成否を決定する。授業の前も後も音読をしっかりと行ってください。多くの漢語圏の観光客が日本を訪れて、日本国内の企業が中国語に堪能な人材を今求められている。積極的に学んでください。教科書は各自必ず購入してください。購入しない場合には受講を認めません。</p> <p>授業中の私語、睡眠、理由のない遅刻、欠席、途中退室は認めません。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	挨拶 1 「你好」	中国語とは 音節、声調について	予習：シラバスを読んで おく。テキスト P2～7 の 予習
2	挨拶 2 「明天見」	声調の変調 単母音、複母音、ピンイン書き方の変化	予習：P7～10 復習：四つの声調変化
3	挨拶 3 「谢谢」	子音(1～14)、無気音と有気音 声調記号のつけ方	予習：P12～14 復習：母音、e の発声の変化
4	挨拶 4 「好久不见」	子音(15～21)、 鼻音、r化	予習：P16～18 復習：子音の発音
5	紹介 1 「迎接」	人称代名詞 姓とフルネームのいい方、たずね方	予習：P20～22 復習：鼻音、n/ng
6	紹介 2 「欢迎会」	動詞「是」 助詞「的」 中国語の平叙文	予習：P26～28 復習：人称代名詞
7	尋ねる 1 「打的」(1)	中国語の基本語順(1) S+V+O 肯定文、否定文	予習：P30～32 復習：平叙文の構文
8	尋ねる 2 「打的」(2)	中国語の基本語順(1) S+V <sub>1</sub> +O+V <sub>2</sub> +O 疑問文、連動文	予習：P32～35 復習：否定文
9	尋ねる 3 「问路」	動詞「有」、「在」 前置詞「从」、「往」	予習：P44～46 復習：疑問詞、疑問文
10	尋ねる 4 「买东西」(1)	中間試験 数字 お金のいいかた(話し言葉、書き言葉)	予習：P48～50 復習：方位詞
11	数える 1 「买东西」(2)	模擬試験の解説 形容詞が述語になる文 副詞「很」、「非常」、「真」	予習：P51～53 復習：三桁以上の数字のい いい方
12	数える 2 「聊天」(1)	時刻、日付のいい方 数量詞	予習：P54～56 復習：形容詞
13	数える 3 「聊天」(2)	年齢のいい方 家族構成	予習：P57～59 復習：年月日、曜日、時刻
14	発音、文法の復習	発音の確認 動画鑑賞 1	ピンインの発音、肯定文、否 定文、疑問文の復習
15	まとめ	動画鑑賞 2 全体の重要事項の理解と確認	全体の復習、重要事項の確 認
16	定期試験	筆記試験	定期試験の準備